

新をえはじ  
これよりお祭のよほ  
いせものごり  
二れはなわらわや  
一をんきうり人  
りわごのそと  
くろのかしら  
まわりのやのらまひ  
かろやうん  
おののびんをま  
びまよび



# 近世文芸研究叢書

第一期文学篇 全23卷

近世文芸研究叢書刊行会編

クレス出版



式亭三馬著



## 『近世文芸研究叢書』刊行にあたって

小社はさきに『芭蕉研究資料集成』を手はじめに、『蕪村研究資料集成』『西鶴研究資料集成』を相次いで世に送り、幸いにして多くの読書子・愛好家に迎えられた。

このたびはそれを承けて、明治・大正期の近世文芸研究の名著を撰し、第一期・文学篇、第二期・芸能篇として刊行するものである。文学篇に収めるところ、散文・和歌・国学・漢学・漢詩にわたって総計三十六点・二十三冊、一万三一六〇ページに及ぶ。芸能篇には歌舞伎・浄瑠璃・舞踊・邦楽等の名著が収められるであろう。

近世文芸研究の進展は今日、幾多の研究史・研究事典を生むに至ったが、そこに引かれる文献、とりわけ明治期のそれはますます入手困難となりつつある。たとえば内藤湖南『近世文學史論』(明三〇) はじめ水谷不倒・藤岡作太郎・三田村鳶魚らの該書は、その全集・著作集によれば容易に読めるであろう。大川茂雄・南茂樹『國學者傳記集成』(明三七)、村岡典嗣『本居宣長』(明四四)等にはまた復刻本が備わる。といって、和田維四郎『江戸物語』(大五)のごとく復刻はありながら、極めて高価なために容易に入手できないものもある。そのうえ各地図書

館の明治期刊行書は近年、あるいは特別図書とされ、あるいはマイクロフィッシュと化するなど、手に取ることの困難は増ばかりである。本叢書をあらためて世に送るゆえんである。

明治二十年代にはじまる本格的な近世文芸研究は、三十年代に入ると作家研究の盛行を見、やがて文献学的・文芸学的研究、さらには評釈・評論にも及んで、大正期にはその基盤が確立された。もとよりそれは、今日の研究水準に照らせば、未熟・不完全の譏りは免れないであろう。しかし、そこには研究が細分化する以前の、時代固有の問題意識や価値観、巨視的な展望が十分見てとれるのである。

諸学問の分野が著しく専門化した今日、近世文芸研究の分野もそれなり細分化せざるを得ない事情は理解できるが、それゆえなお細分化以前の総合研究の段階にひとまず立ちかえって、自他の問題の道筋を整理・展望するのは決して無意味ではないであろう。

近世文芸の愛好家あるいは初学者にとつて、この叢書がそれぞれの問題の始源に遡り俯瞰するさいの導きの糸となり、さらには新たな読書・研究の一助となることを願って止まない。

1. 通史

1	小説史稿	関根 正直著 明治23年4月 金港堂本店	小説の起原／公家世盛りの時代／竹取物語（玉の枝の條）の文／源氏物語（橋姫の巻）の文／鎌倉將軍の時代／室町將軍の時代／江戸將軍の時代（物語・浄瑠璃正本、院本、実録体 御伽草子、草双紙、滑稽本、浮世草子、小本、読本、演劇脚本、正本製、人情本）、没革総説、作者略伝
2	慶長諸家著述目録 小説家	中根 肅治編 明治26年6月 青山堂支店	慶長以来の稗史戯曲講讀咄本等に係る著述家を蒐集し、其著述書目を収録。
3	慶長諸家著述目録 和學家	中根 肅治編 明治27年5月 八尾書店	神道、国史、律令、格式、有職故実、考証、国語、和文、和歌等の著述ある和學家をいろは順に列し、其著述書目を収録。
4	慶長諸家著述目録 漢學家	中根 肅治編 明治27年8月 八尾書店	經史子集に関する著述ある漢學家をいろは順に列し、其著述書目を収録。
5	江戸戯曲小説通志	雙木園主人編 明治27年7月 誠之堂書店	戯曲 浄瑠璃本（金平本、国姓爺合戦、曾根崎心中、菅原伝授手習鑑） 演劇脚本（於染久松色読版） 小説 浮世草子（世間胸算用、小夜嵐物語、世間手代氣質） 洒落本（仕懸文庫、通氣粹語伝、田舎芝居） 人情本（いろは文庫） 草双紙（江戸生浮氣権燒、田舎源氏） 実録物（大久保武藏鑑、大岡政談 読本（八犬伝、三七全伝、桶柄杓、弓張月、雨月物語） 滑稽本（道中膝栗毛、浮世風呂、浮世床） 伝記
6	近世國文學史	佐々 政一著 明治44年7月 聚精堂	近世前期 文教奨励と漢字の勃興／貞門の俳諧と和学／談林派の俳諧／西鶴の浮世草子／松尾芭蕉と蕉風／歌謡と歌舞伎／近松門左衛門と浄瑠璃／八文字屋本／古学復興と漢學者の国文 近世後期 文運東遷と復古派の歌文／本居宣長と古学／川柳／蜀山人／黄表紙／山東京伝／俳諧の復興／馬琴と種彦／一九、三馬、春水／脚本と浄瑠璃／頼山陽と香川景樹 現代文学概観
7	近世日本小説史 前篇	鈴木 敏也著 大正11年5月 目黒書店	啓蒙から歡樂への文藝 近世小説の背景／仮名草子の時代（黎明期概観、前代継承の文学、仏教弘布の文学、教訓草子、黎明期の巨擘―浅井了意） 浮世草子創設時代（文芸史上の元祿期、西鶴の創作、西鶴の遺稿、質疑ある西鶴本、西鶴が創作の芸術的価値）
8	近世日本小説史 後篇	鈴木 敏也著 大正9年10月 目黒書店	蠱惑と幻妖との文藝 浮世草子の転向（好色本の流れ、事実小説、教訓小説、怪異小説、当代の重なる作家） 浮世草子の新彩（家と人、作家としての江島其磧、元文以後の八文字屋本） 浮世草子の凋落と読本の萌芽（衰殘期の上方文学、読本の源流、上方文学最後の閃光―上田秋成）

2. 一般

9	雀躍	饗庭 篁邨著 明治42年4月 精華書院	式亭三馬の日記／蜀山人の盆燈籠／近松門左衛門と竹田出雲／八文字屋自笑消滅せんとす／曲亭馬琴の日記／蜀山人の日記／馬琴の俳諧／上田秋成／世話物の由来／種彦の国姓爺／近松の三傑作につきて／曲亭馬琴及び柳亭種彦の浄瑠璃／曲亭馬琴の書／能楽、猿楽、田楽考 ほか
10	嗟峨本考	和田維四郎著 大正5年5月 私家版	諸書に散見する嗟峨本の記事／嗟峨本の定義／光悦及素庵の筆跡及光悦の意匠／蒐集又は借覧したる嗟峨本に就きての調査／嗟峨本の特徴／光悦本と嗟峨本との区別／出版の前後及整版と活字版とを採択の理由／光悦本と嗟峨本の優劣／類似本
11	江戸物語	和田維四郎著 大正5年5月 私家版	江戸開市の由来／江戸の市民と江戸児気象の成因／幕府施設の方針／市民の教育／出版物の取締／市民の読本／浮世絵及木版色摺の技能／読売の摺物（瓦版）／諷刺画及落首／市民の生活状態／大火と消防夫／芝居及俳優／勸進相撲及力士／遊女屋及遊女／江戸の繁昌と市街の光景／皮辰の変／結文
12	江戸情調と悪の讚美	石井 研堂著 大正9年3月 伊勢辰商店	一名錦繪の發行年代推定法 錦繪の改印／錦繪の出版検閲法／錦繪の改印の考証法／錦繪の改印の紀元と八様式（極字印の時代、名主の単印の時代、名主両人双印の時代、名主両印と年月印と三印の時代、改と年月と双印の時代、橋田年月単印の時代、年月改三字の単印時代、円形年月単印の時代）、團扇絵
13	地本錦繪問屋譜	石井 研堂著 大正9年8月 伊勢辰商店	伊勢屋主人広瀬菊雄の協力を得て、錦繪の版元名を蒐集・整理したもの。商標・略称が掲載されている。
14	江戸文学十二講	高須 芳次郎著 大正12年1月 新潮社	龍夜の幻影を追って（三人吉三）／輝く桜の花のやうに（助六と揚巻）／初鰯と黄金の酒（髪結新三）／悪の華（弁天小僧）／雪降る入谷の夜（直侍と三千歳）／悪の創造者（河内山宗俊）／暁の雨に濡れた鶯（暁雨と庄兵衛）／恋の雪降る（切られ与三とお富）／醒めゆく郎の夢（権八と小紫）／喧嘩と火事と（辰五郎とお祭佐七）／月夜の誘惑（十六夜と清心）
15	史話俗談	関根 正直著 大正9年11月 国民図書株式会社	近世文化の黎明と江戸時代文学の概観／文芸復興前期の文学／文芸復興期と民衆生活の種々相／京阪文化の進歩と近松及び西鶴／京阪文学の隆盛及び俳諧の趨勢／江戸文化の発達と洒落本及び黄表紙／人としての京伝、馬琴、三馬、一九と其の作品／新興の短歌、俳句に現はれた色彩情趣／遊蕩文学と歌舞伎趣味の江戸市民／近世演劇の振興と劇文学／江戸末期の民衆文学
16	江戸文学研究	藤井 乙男著 大正10年5月 内外出版株式会社	縁喜の話／平安朝貴族の風雅趣味／近松一流の身代劇／鎌倉室町兩時代の服装／立志伝中の人橋枝直／徳川時代初期の風俗／江戸の文人村田春海／徳川時代服制一斑／橋千蔭と其の時勢／庭園史話／曲亭馬琴の生活／中古の禁忌迷信／狂歌史伝／明治元年の東京／ほこしらへ
17	江戸と上方	笹川 臨風著 大正11年2月 国史講習会	「江戸文学概観」を巻頭に、小説・俳諧・戯曲等五十四編の論文を、作品・作家それぞれの年代順に収めている。
18	上方文学と江戸文学	藤村 作著 大正11年11月 至文堂	文化叢書第三編 植民地的色彩／江戸の名残／関の東西／地方的特色／游侠の風／町人全盛の曙光／俄分限の大阪／衣裳美の京／江戸と民衆文芸
19	徳川文学と武士生活	藤村 作著 大正12年2月 国史講習会	武士生活と町人生活／芸術家としての西鶴／西鶴が作中の人生／愛の人近松／近松の芸術／女殺油地獄の解積／近松・西沢が作中の女性／西沢一風／俳諧生活／遊蕩生活の小説／同性愛の文学／藤栗毛と江戸人／三馬が滑稽本の二種／種彦の合巻／江戸文学に現れた遊蕩の生活／説話として見た馬琴の小説
20	近世生活と國文學	麻生 磯次著 大正14年10月 至文堂	文化叢書第一九編 徳川時代文学の二分野／武士生活と徳川時代文学の著想／説話の様式（御家騒動、敵討）／徳川文学と判官蟲眼
21	近世生活と國文學	麻生 磯次著 大正14年10月 至文堂	武士と町人／遊里中心の生活／俳諧生活の基調／司笑味の性質と諧謔生活／生活の頹廢

文壇の三偉人

栗嶋山之助著  
明治32年12月  
三国書房

俗文学の発達／多田義俊／建部綾足／上田秋成／俗学者としての三子／製作につきての評論／国学者としての三子／三子が処世

瀧澤馬琴

塚越芳太郎著  
明治36年1月  
民友社

寛政の日本／馬琴の生涯（滝沢家、驕悍児、無頼の年少、著作者としての前期・中期・晩期、家庭及交友、人物）／馬琴の理想（学問及理想、馬琴の眼に映じたる人・社会・盡力）／馬琴の事業（馬琴の主張、著作の生涯、文章、代表的著作、諧謔的戯曲、抒情詩、考証的著作、時の小説家）／馬琴の本領

曲亭馬琴

雨谷一雫庵著  
明治39年3月  
井上一書堂

馬琴の誕生時代／当時の戯作界／作者の理想及時代の嗜好／馬琴と其処女作／馬琴と書肆及画工／馬琴の人物及性行／馬琴の生活／馬琴の抱負／馬琴の素養と精力／馬琴と作の評判／家庭に於ける馬琴／馬琴の交遊／馬琴と八犬伝／馬琴の詩歌俳句

北村季吟傳

石倉重継著  
明治31年1月  
三松堂松巴書店

生涯／花見／季吟の雅号及由来／老後及閑居／下谷正慶寺／季吟の子孫／師友及門弟／其著書／その文章／其詩文／その歌謡／季吟の歌集、誹句集、連句集／花押及印鑑再昌院の起因

戸田茂睡論

佐佐木信綱著  
大正2年9月  
竹柏会

元禄時代と茂睡／歌論家としての茂睡附万葉集口伝大事と茂睡／歌人としての茂睡／文章家としての茂睡／道学者としての茂睡／御当代記と茂睡／茂睡の性格

茂睡考、解説

佐佐木信綱解説  
大正4年11月  
民友社

成實堂叢書八（山東京山著） 茂睡翁出生／天正年間の時勢／隠家の茂睡と異名せられし事／梨本集の跋文／茂睡の伝一説／茂睡の一子事跡／茂睡本郷丸山住し事／浅草寺船形の手水鉢の事／花川戸六地藏石燈籠の事／駒形堂の碑／手向野の塚／隠家勸進百首選／待乳山の碑／待乳山碑の水写／茂睡墓趾／茂睡墓碑

大隈言道とその歌

佐佐木信綱編  
梅野満雄編  
大正15年5月 古今書院

歌人大隈言道／大隈言道集／ひとりごち／こそこのちり／大隈言道伝

賀茂真淵

武島又次郎著  
明治31年1月  
大日本図書株式会社

國文學大綱第二卷 享保元文の国文界／真淵の幼時及壯時／京都に於ける真淵／江戸に於ける真淵／歌人としての真淵／語学者としての真淵／契沖春満及真淵／縣門の諸名家

賀茂真淵と本居宣長

佐佐木信綱著  
大正6年4月  
広文堂書店

縣居の九月十三夜／真淵の遷都論／真淵の土満に贈りし書牘／蒙庵と真淵／真淵と景樹／縣居集言録の一節／真淵と元暦校文万葉／真淵と三十一言の歌／ふぶくろ抄／真淵の遺墨／松坂の一夜／宣長伝補遺／宣長の母勝子／松坂雜記／古事記伝の版本／宣長と万葉研究／宣長の五言七言論／排蘆小船と宣長の歌論／磯舜問答解説／和泉和磨の宣長評

契沖阿闍梨

大町桂月著  
明治30年4月  
大日本図書株式会社

國文學大綱第一卷 国学復興／契沖の一家及其幼時／僧としての契沖／契沖と長流／泉州の閑居／契沖と水戸義公／契沖が註釈／著述時代／契沖の和歌和文／円珠菴

香川景樹

塩井雨江著  
明治31年6月  
大日本図書株式会社

國文學大綱第三卷 明和文政の国文界／景樹の初年／香川家／景樹が梅月堂時代／景樹の中年／景樹が晩年／景樹が性行／景樹が著書及び歌論／景樹の和歌／景樹の一家及び門人

橘曙覧傳并短歌集

山田秋甫著  
大正15年11月  
中村書店

履歴の梗概（橘家は名族、井手氏系図、曙覧の生立、賜松館、飛騨遊学と足羽山卜居、藁屋と曙覧の雅号、万葉集選歌、伊勢参宮、曙覧の家訓、春嶽公枉駕、天狗の境界、康米を給与せらる、幕末の終焉、曙覧の人格、書風、夫人の貞烈、知己）／曙覧の学風（福井の歌道、曙覧の学統、勤皇思想、知己子規の歌評、詠史歌人、諸名家の批評、著書、門人列伝）／曙覧の親友、歿後

太宰春臺

前沢淵月著  
大正9年10月  
嵩山房

家系／家庭／立志／出仕と就師／登獄／入京／流離／政変／获生徂徠／対面／護園社同人／春台と徂徠／紫芝園／学則／春台の門人／自任／処士／強記／書道／舞楽／酒話／妻子／終焉／著書／著書解題／号の由来／嵩山房／太宰松／年表 倫理説／経済説／詩観／文章論／短歌論

隨筆頼山陽

市島春城著  
大正14年3月  
早稲田大学出版部

山陽の生活／山陽の文芸／山陽の趣味／山陽と諸家／山陽の雑事／山陽の遺跡を訪ふ

梁川星巖翁附紅蘭女史

伊藤信著  
大正14年5月  
梁川星巖翁遺徳顕彰会

家系／少壯時代／西遊時代／流寓時代／江戸時代／京都時代 著書／詞藻／仏教論／儒学説／為人／紅蘭女史の才藻／逸話／門人の指導／身後の余采

# 近世文芸研究叢書

●近世文芸研究叢書刊行会編  
●第一期文学篇全23卷

■造本・体裁

A5判・上製函入・本文クリーム中性紙使用

■刊行予定・定価(分売不可)

1、通史 全7巻

一九九四年十一月末日

揃定価八二、四〇〇円(本体八〇、〇〇〇円)

2、一般 全7巻

一九九五年五月末日

揃定価九八、八八〇円(本体九六、〇〇〇円)

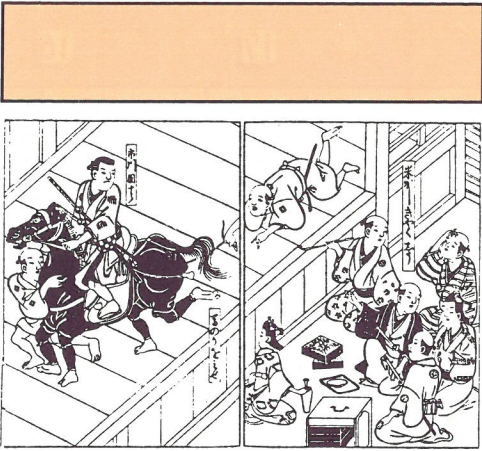
3、作家 全9巻

一九九五年十一月末日

揃定価一一八、四五〇円(本体一一五、〇〇〇円)

第一期文学篇全23巻

揃定価二九九、七三〇円(本体二九一、〇〇〇円)



## ◆国文学関係書籍の御案内

### 芭蕉研究資料集成

全20巻 久富哲雄監修・解題

俳諧の世界のみならず、日本文学全体に多大な影響をおよぼした芭蕉の没後三百年を記念して、人物・作品の価値ある研究書を集成。  
明治篇全9巻

揃定価一〇九、一八〇円(本体一〇六、〇〇〇円)

大正篇全11巻

揃定価一五四、五〇〇円(本体一五〇、〇〇〇円)

### 蕪村研究資料集成

全17巻 久富哲雄・谷地快一監修・解題

日本・中国を問わず、古典に親しみ、俳諧に絵画に、自在なる境地を志向した蕪村の明治・大正期に刊行された基礎的研究資料を集成。  
揃定価一九一、五八〇円(本体一八六、〇〇〇円)

### 西鶴研究資料集成

全8巻 竹野静雄監修・解題

江戸時代の浮世草子作者・俳諧師井原西鶴の没後三百年を記念して、明治大正、昭和初期に発表された資料約四七〇点を纏めて刊行。  
揃定価一二九、七八〇円(本体一二六、〇〇〇円)

### 俚言集覧 自筆稿本版

全11巻 太田全斎編 ことわざ研究会監修・解題

江戸時代の代表的な三大国語辞書の一つ『俚言集覧』の唯一の稿本を、『移山伊呂波集』とともに復刻。活字本にはない書き込み等も多く、研究者に新たな資料を供与する。  
揃定価一五四、五〇〇円(本体一五〇、〇〇〇円)

### 徳川三百年人物大鑑

全5巻 長田偶得編

徳川三百年間に於ける思想界に勢力のあった碩学鴻儒、文学者美術工芸家名僧、義人烈士等七二名の伝記集。年譜・肖像画付。  
揃定価七八、二八〇円(本体七六、〇〇〇円)

### 日本鹿子

磯貝舟也著 久富哲雄解題

元祿四年三月刊行の、全国的な道・国別の地誌十五巻を復刻。城・陣屋・神社・仏閣・名所・名物等を詳細に記述する、江戸文化研究者必携の書。  
定価一八、五四〇円(本体一八、〇〇〇円)

### 影印 仮名錦繡段・三體詩・古文真寶

久富哲雄編・解題

江戸期に刊行された貴重な振仮名つき漢詩文集を復刻、『錦繡段』『三體詩』は、天和版と元祿版の二種類を収録。近世の文学作品読解の参考となる文献集。定価一〇、三〇〇円(本体一〇、〇〇〇円)

〒103 東京都中央区日本橋小伝馬町14-15 メロリーナ日本橋  
☎03(38808)1821 FAX03(38808)2822

株式会社 クレス出版